ALALAL

2011 年 7 月 31 日発行

# ALLAL MARKA

- 今回の紙面から (ページと内容)
  1. 会長挨拶
  2. 第29回大会のお知らせ
  3. 第5回国際春季フォーラムのご案内理事会より
  4. 編集委員会より
  5. 大会運営委員会より広報委員会より
  位報委員会より
  2010年度会計報告
  2011年度予算計画
  7. 事務局より 今回の紙面から (ページと内容)
  1. 会長挨拶
  2. 第29回大会のお知らせ
  3. 第5回国際春季フォーラムのご案内理事会より
  4. 編集委員会より
  5. 大会運営委員会より広報委員会より 広報委員会より
  6. 学会賞委員会より 2010年度会計報告 2011年度予算計画
  7. 事務局より

# 会長挨拶

稲田 俊明

会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。 未曾有の大震災により、被災地域の大学では、 教育・研究施設にも多大な被害が残り、授業 計画等も少なからぬ影響を受けているのでは ないかと存じます。東日本地域の会員の皆様 の困難な教育・研究環境が一日も早く復興し ますように祈念いたします。

4月に開催された第4回国際春季フォーラ ムは、震災の影響で海外と被災地域からの3 つの発表がキャンセルされましたが、無事終 了しました。周到にご準備いただいた開催校 の関係者の方々、震災直後から開催を目指し て尽力された大会実行委員会と長谷川担当理 事に心からお礼申し上げます。

学会の国際化に向けて新たな展開がありま す。次年度の春季フォーラムより、韓国英語 学会 (English Linguistic Society of Korea (ELSOK)) と講師の交流を行うことになりま した。また韓国で開催される ELSOK ワーク ショップにも講師を送り相互交流を深めます。 本年6月には、伊藤、長谷川両理事がワーク ショップ参画と交流の準備のために訪韓し、 理事会、編集委員会等で具体案の検討を始め ました。両学会誌への会員相互の寄稿も検討 中です。

会員支援策の一環として、学会賞・新人賞 規定等を抜本的に改善し、学会顕彰を積極的 に行うという方向は前回も報告しました。既 に、学会ホームページでも告知していますが、 EL に掲載された2論文が奨励賞を受賞しま した。現在、学会賞・新人賞についても選考 が進んでいます。最終選考結果は本年11月に 開催される学会総会で報告されます。

第29回大会は、11月12日(土),13日(日) に新潟大学で開催されます。詳細は案内の通 りですが、本年度も「公開シンポジウム」が 大会初日に開催されます。英語学の多様な研 究成果を社会に問う企画の一環として、昨年 度は非会員を含め多数の参加者を集めました。 大会への会員の皆様の多数のご参加をお待ち しています。本大会に際しては、「新潟県コン ベンション開催費補助金」が交付される予定 です(申請中)。大会開催費や懇親会における 会員相互の親睦のために補助金を有効に活用 し、有意義な大会にしたいと事務局を始め開 催校関係者は準備を進めています。

来年度 2012 年には、本学会は設立 30 周年 を迎えますが、記念大会は慶応義塾大学(三 田)で開催されることになりました。記念大 会を引き受けていただいた慶応義塾大学の関 係者の諸先生に厚くお礼申し上げます。現在、 記念事業 WG を中心として、特別シンポジウ ム、ワークショップ等の記念事業の策定や各 研究分野の海外招聘講師の選定が行われてい ますので、準備ができ次第お知らせします。 30周年の節目を迎え、意義のある充実した記 念大会を開催することが、学会の新たな飛躍 の第一歩となることを願っています。

予期せぬ大災害の影響により、学会や研究 機関を取り巻く環境は厳しくなるものと思わ れますが、会員の皆様の一層のご支援とご協 力をお願いします。

# 第29回大会のお知らせ

日時:2011年11月12日(土)~13日(日)

場所:新潟大学 五十嵐キャンパス

(〒950-2181 新潟市西区五十嵐 2 の町 8050 番地)

日本英語学会第 29 回大会は、大会運営委員会と 開催校のご協力とご尽力により、着々と準備が進 められています。今大会のスケジュールは以下の 通りです。シンポジウムは第1日の午後と第2日 の午後に予定しております。

11月12日(土)

9:30~11:45: ステューデント・ワークショップ

12:10~12:50:総会 13:00~14:55:研究発表

15:15~18:00:公開シンポジウム

18:20~19:50: 懇親会 11月13日(日)

9:30~12:05:研究発表 13:30~16:15:シンポジウム

今年度は、2 つのステューデント・ワークショップ、35 の研究発表と5つのシンポジウムが予定されています。シンポジウムの内容は以下の通りです。([]]内は司会者、()内は講師と題目、"(E)"はシンポジウムまたは個別講演での使用言語が英語であることを示します。)

- A. 「日英語比較研究の可能性―その社会的応用をめぐって―」(公開)[井出祥子](斎藤 衛:「談話の文文法 ―「談話的言語」を可能にする文法システム」,平賀正子:「制度的談話分析の可能性:日本人留学生のアカデミック談話事例を中心に」,村田和代:「職場の談話研究から社会貢献について考える」,影山太郎:「英語学会にとって社会貢献とは?」)
- B. 「統語と音韻のインタフェイス」 [時崎久夫] (成田広樹: "Phasing in Linearization of Unlabeled Phrase Structure", 土橋善仁: "Deriving the Prosodic Hierarchy", 佐藤陽介: "Successive Cyclicity at the Syntax-Phonology Interface: Voices from Standard Indonesian", 時崎久夫: "Universal Syntax and Parametric Phonology")

- C.「言語と言語の接点から見る言語知識の普遍性 と個別性」[窪薗晴夫](窪薗晴夫:「借用語に見ら れる普遍性と個別性」,ダニエル・ロング:「言語 接触に見られる普遍性と個別性」,遊佐典昭:「第 二言語獲得における普遍性と個別性」,松岡和美・ 森(三品) 聡美:「同時バイリンガリズムに見られ る普遍性と個別性」)
- D.「生物言語学・進化言語学の新しい流れ」[池内正幸] (藤田耕司:「言語進化の内と外」,岡ノ谷一夫:「言語進化研究を生物学にするには」. 討論者として <言語チーム> が藤田耕司, 萩原裕子,池内正幸の各氏, <生物・モデリングチーム> が岡ノ谷一夫,内田亮子,橋本 敬の各氏)
- E.「(間) 主観性の諸相」[中村芳久](野村益寛:「認知文法における主観性構図の検討」,本多啓:「Subjectification を三項関係から見直す」,中村芳久:「双方向的認知構図の妥当性」.ディスカッサントとして上原 聡氏)

公開シンポジウム「日英語比較研究の可能性― その社会的応用をめぐって―」については、同シ ンポジウムに限り非会員でも無料で参加できます。

本大会の詳しい内容につきましては、同封の「大会資料・プログラム」とワークショップ・プログラム、および9月以降日本英語学会ホームページに掲載されます大会における発表要旨(いずれもダウンロード可能)をご覧下さい。

#### ◇ 大会当日の受付について

大会当日は受付にて大会参加費(2000円)をいただき Conference Handbook と名札をお渡しします。名札をつけていない方は入室できませんのでご注意下さい(公開シンポジウムのみ参加費と名札なしで入室できます)。また、11月12日(土)の受付は12時より始めますのでお早めにお出かけ下さい。

\*本大会の開催にあたっては新潟県にコンベンション開催費補助金申請を行っております。必要書類として参加者の氏名、都道府県名、所属(または住所)を提出する必要があります。非公開情報として参加者の確認のためだけに使用するものです。受付時にご協力をお願い申し上げます。

#### ◇ 総会について

12 日 (土) の 12:10 より 12:50 まで総会を開催 します。総会では、会長の挨拶、開催校代表のご 挨拶、大会運営委員会、編集委員会、広報委員会、 学会賞委員会、事務局からの報告などがあります。 会員の皆様の積極的な参加をお待ちしておりま す。

#### ◇ 懇親会について

12 日 (土) 18:20 より 19:50 まで、総合教育研究棟隣りの第一学生食堂において会員懇親会(会費 4000円(学生 3000円))を催します。是非ご参加下さい。

# ◇ 証明書等の発行について

全国大会出席のため、所属機関に提出する証明 書等が必要な方は、返信用封筒を同封の上、下記 までご請求下さい。書式が定まっている場合には 証明印以外の部分を記入したものをお送りいただ ければ幸いです。

〒113-0023 東京都文京区向丘 1-5-2 開拓社内 日本英語学会事務局

# ◇ 学内食堂の利用時間

12日(土)、13日(日)の両日とも学内の生協 食堂は昼食を提供いたしておりません。昼食は、 ご持参頂くか、近辺のコンビニエンスストアをご 利用いただくことをお勧めいたします。同封の大 会資料・プログラムをご覧下さい。

# 第5回国際春季フォーラムのご案内

第5回国際春季フォーラムは次の通り開催される予定です。

日時: 2012年4月21日(土)·22日(日)

場所:甲南大学

(〒658-8501 兵庫県神戸市東灘区岡本8-9-1) 研究発表とワークショップの募集につきまして は、同封の案内をご覧下さい。

# 理事会より

#### 〇 会計

2010 年度収支決算書および 2011 年度予算計画 書が、6月 26日開催の第62回理事会、ならびに 理事会メール会議にて審議の結果、承認されまし た。 収支決算と予算計画の内容については、このニューズレターの、6ページから7ページをご覧ください。

#### 〇 会則の改正

2011年6月26日開催の第62回理事会において、日本英語学会会則の改正が承認されました。

改正された条項は以下のとおりで、すでに日本 英語学会ホームページに掲載されております。

#### ・第62回理事会で改正された条項の新旧対照

- ① 第10条
- 旧:会長は、理事会の選挙によって決める.会長の任期は3年とし、引続き再任はできない.なお、会長は、会員の中から選出されるものとし、就任時に満65歳以下でなければならない
- 新:会長は、理事会の選挙によって決める.会長 の任期は2年を1期とし、再任されてもよい が引き続き2期を超えてはならない。なお、 会長は、会員の中から選出されるものとし、 就任時に満65歳以下でなければならない。
- ② 第11条2.
- 旧:事務局長は任期を3年とし、引続き再任はできない. 原則として会長と任期を同じくし、 会長の交代に伴い、交代することができる.
- 新:<u>事務局長は2年1期を任期とし</u>,再任されて もよいが引き続き2期を超えてはならない.
- ③ 第17条
- 旧: 2. 広報委員の任期は3年とし、引き続き再 任できるが2期を超えることはできない。
  - 3. 広報委員会の規定は別に定める.
- 新: 2. <u>広報委員の任期は2期(1期=2年)と</u> し,引き続き再任はできない.
  - 3. <u>広報委員長の任期は1期とし、再任はできない</u>
  - 4. 広報委員会の規定は別に定める.

# 〇 役員の異動

#### 評議員(退任)

和田四郎氏が2011年3月31日付で評議員を退任されました。

#### 監事(退任)

家入葉子氏が2011年3月31日付で監事を退任されました。

#### 広報委員長(退任)

大庭幸男氏が2011年3月31日付で広報委員長

を退任されました。

# 事務局長(退任)

岡崎正男氏が2011年3月31日付で事務局長を 退任されました。

ご退任のみなさま方、これまで日本英語学会の 運営にご尽力いただきましたことに対し、厚くお 礼申し上げます。

#### 評議員 (新任)

和田四郎氏に代わり、2011 年 4 月 1 日付で、山口治彦氏(神戸市外国語大学)が評議員に就任されました。任期は、和田氏の残任期間の2012 年 3 月 31 日までです。

#### 監事 (新任)

2011 年 4 月 1 日付で、金子義明氏(東北大学) が監事に就任されました。任期は、2014 年 3 月 31 日までの 3 年間です。

# 広報委員長 (新任)

2011 年 4 月 1 日付で、大室剛志氏(名古屋大学) が広報委員長に就任されました。任期は、2013 年 3 月 31 日までです。

# 学会賞委員会委員長 (新任)

2011年4月1日付で、今西典子氏(東京大学) が、学会賞委員会委員長に就任されました。任期 は、2012年3月31日までです。

#### ○ 第30回大会(2012年度)の開催校

来年度の大会は、2012年11月10日、11日に慶応義塾大学にて第30回記念大会として開催される予定です。詳細については、2012年1月末に発行予定の『え~ごがく』56号にてお知らせいたします。

# 編集委員会より

# ◇ 第15 期編集委員会 (EL29~30 巻編集担当) 新任編集委員について

昨年、編集委員会の定数は2名増員して23名とすることが認められましたので、編集委員会規定(2009年4月1日施行)に従って、第15期編集委員会の新任委員は、以下のように選出されました。新任委員の1期目の任期は2011年7月1日から2013年9月30日です。第14期編集委員会から引き継ぐ2期目の委員の任期は2011年10月1日から2013年9月30日です。2011年7月から9月までの期間は、第14期編集委員会と第15期編集

委員会の引継ぎ移行期となり、分担協力して EL の編集業務が行われます。

<新任委員 13 名〉 奥聡氏(北海道大学)、岡田 禎之氏(大阪大学)、杉岡洋子氏(慶応義塾大学)、 Christopher Tancredi 氏(慶応義塾大学)、越智正男 氏(大阪大学)、加賀信広氏(筑波大学)、長谷川 宏氏(専修大学)、小野尚之氏(東北大学)、早瀬 尚子氏(大阪大学)、本間猛氏(首都大学東京)、 漆原朗子氏(北九州市立大学)、萩原裕子氏(首都 大学東京)、保坂道雄氏(日本大学)

<2 期目の委員 10 名> 伊藤たかね氏(東京大学、現副委員長)、北原久嗣氏(慶応義塾大学)、 時崎久夫氏(札幌大学)、蔵藤健雄氏(立命館大学)、 家入葉子氏(京都大学)、吉村あき子氏(奈良女子大学)、宮本陽一氏(大阪大学)、星宏人氏(秋田大学)、田中智之氏(名古屋大学)、遠藤喜雄氏(神田外語大学)

なお、第 14 期編集委員会の 2 期目の委員である 西岡宣明氏は事務局長就任のため、2011 年 3 月 31 日に退任し、寺田寛委員、坪本篤朗委員、岩田彩 志委員、矢田部修一委員、田中伸一委員、由本陽 子委員、松岡和美委員、酒井弘委員、Brent de Chene 委員は 2011 年 9 月 30 日に、現編集委員長外池滋 生委員は 2011 年 11 月 30 日に退任します。

# ◇ **2010** 年度 *EL* 研究奨励賞受賞論文の決定について

EL27 巻に掲載された Article 4 編 (Syntax 3, Semantics 1)、Brief Article 6 編 (Syntax 2, Cognitive Linguistics 1, Historical Linguistics 3) あわせて 10 編の中から、1 次審査通過論文として選定された Article 4 編 (Syntax 3, Semantics 1) について、編集委員長、副委員長を含めた 6 名の最終選考委員により最終審査が行われ、その結果をもとに最終選考委員会として以下の Article 2 編を受賞論文として決定しました。

葛西 宏信氏: Parasitic Gaps under Multiple
Dominance (Syntax)

前田 雅子氏: The Criterial Freezing Effect and Split A'-Movement (Syntax)

# ◇ 東日本大震災に伴う English Linguistics 28 巻 2 号の編集日程の変更について

東日本大震災により、当初の日程で編集作業を 行うことが難しいため、また、会員の発表の機会 をできるだけ等しくするために、一般論文の締切 を4月1日から1ヶ月延長し4月30日とし、28巻2号の編集日程を特別日程で編集しています。

また、特別企画 2010 一括投稿論文、Review・Review Article については、被災地の投稿者に対して、締切の延長や次号への掲載延期など必要な特別対応措置をとりました。

# ◇ English Linguistics 第 28 巻 1 号 (2011 年春号) の刊行について

EL 28.1 (春号) が刊行されました。Invited Article 1編、Article 2編、Brief Article 1編、Notes & Discussion 1編、Review 4編が掲載されています。

# ◇ English Linguistics 第 28 巻 2 号(2011 年秋号) の応募論文について

2011 年 4 月 30 日締め切りで投稿された論文総数は 8 編で、投稿部門と投稿分野の内訳は、Article 4 編 (Syntax 3, Syntax & Second Language Acquisition 1)、Brief Article 3 編 (Semantics 1, Historical Linguistics 2), Notes & Discussion 1編 (syntax 1)でした。「4ヶ月書き直し」として再投稿された論文は、今号はありませんでした。28巻2号は現在、特別日程により審査中です。

なお、「特別企画 2010」の事前審査 (2010 年 12 月 15 日締切) に応募され採用となった「特集テーマ: Linear Information Across Grammar」のもとで投稿された論文 (Brief Article 相当論文 3 編とIntroduction) は、現在一般応募論文とは別に審査中です。

# ◇ English Linguistics 第29巻1号(2012年春号) への投稿について

2012 年 6 月発行の English Linguistics 第 29 巻 1 号の原稿締切は、2011 年 9 月 20 日 (火) 24 時 (必着)です。応募される方は、学会ホームページに記載されている投稿規定及び書式に関する注意事項を通読され、最新版の規定に則って作成してネイティブ・チェックを受けた原稿をご投稿下さいますよう、お願い申し上げます。

# ◇「特別企画 2011:特集テーマによる一括投稿論 文」の公募について

編集委員会は、EL29 巻の編集にむけて本年度も 「特別企画 2011:特集テーマによる一括投稿論 文」の公募を行うことを決定しました。事前申し 込みの締切日は、2011年12月15日です。6月初 旬には、公募案内がHPに掲載されていますので、 事前申し込みにぜひ応募ください。

# 大会運営委員会より

#### ◇ 第29回大会個人研究発表への応募の審査結果

個人研究発表には 58 篇の応募があり、審査の結果、本大会では 35 篇の研究発表が行われることになりました。

#### ◇ 第4回国際春季フォーラム報告

第4回国際春季フォーラムは、2011年4月23日(土)・24日(日)の両日、静岡大学浜松キャンパスにおいて開催されました。今回のフォーラムでは、3つの招待講演、20の口頭発表、9つのポスター発表が行われました。震災の影響が懸念される中、87名(会員73名、非会員14名)の参加者があり、活発な議論が展開されました。フォーラムの運営を支えてくださった開催校の近藤真先生をはじめとする開催校委員の先生方と学生の皆さん、鍋島弘治朗実行委員長をはじめ国際春季フォーラム実行委員ならびに大会運営委員の先生方、そして参加された会員の皆様のご協力に対して、心よりお礼申し上げます。

# 広報委員会より

#### ◇ 委員の交代について

広報委員会規定(平成21年6月15日施行)にもとづいて、平成23年3月31日に大庭幸男氏、金子義明氏がご退任になりました。また同規定(平成23年4月1日施行)に従い、同年4月1日より、大室剛志氏(委員長 名古屋大学)、藤井友比呂氏(横浜国立大学)が留任(2期目)、天沼実氏(副委員長 宇都宮大学)、澤田茂保氏(金沢大学)、田中裕幸氏(関西学院大学)が新委員として選出されました。委員の任期は2期(1期は2年)です。

# 学会賞委員会より

# ◇ 新人賞と学会賞(論文)の応募状況

2011 年度の新人賞と学会賞(論文) は 5 月 31 日 に締め切られました。有資格者の 2010 年度 EL 研究奨励賞受賞者から、新人賞と学会賞(論文) にそれぞれ 1 件ずつ応募がありました。応募論文の領域は新人賞も学会賞(論文) もともに統語論です。現在選考委員会において厳正に審査が行われており、最終選考結果は本年 11 月に開催される日本英語学会総会で報告されます。

# ◇ 学会賞(著書)の応募状況

5月31日に締め切られた2011年度の学会賞(著書)には2件の応募がありました。会員としての会費納入条件を満たしており、また応募著書は2年以内に刊行されていることが事務局により確認されましたので、応募申請は2件とも受理されました。応募著書の領域は、それぞれ史的研究と音韻論です。1次審査と最終選考の2段階選考で、現在、厳正に審査が行われており最終選考結果は本年11月に開催される日本英語学会総会で報告されます。

# 日本英語学会 2010 年度会計報告

2010 年度収支決算書(2011 年 4 月 1 日現在)が 監事(萩原裕子氏、金子義明氏)による監査を経 て、6 月 26 日開催の第 62 回理事会で承認されま した。

> 日本英語学会 2010 年度収支決算書 2011年4月1日 日本英語学会会長 稲田俊明

収入 (①)	¥24,895,974
支出 (②)	¥14,056,557
2011 年度への繰越	¥10,839,417

【収入内訳】	
2009年度より繰越	¥10,625,123
会費	¥10,830,915
大会参加費	¥1,422,000
JELS購入金	¥4,500
科研費と利息	¥900.017

利息	¥2,052
雑収入	¥477,076
寄付	¥634,291
合計①	¥24,895,974
_	
【支出内訳】	
EL 刊行費	¥4,117,663
NL 等印刷費	¥112,150
業務委託関係費	¥2,318,685
事務委託費	¥1,276,815
発送費	¥1,041,870
大会関係費	¥2,218,358
印刷費	¥655,830
運営費	¥910,128
謝金	¥652,400
JELS28関係費	¥626,272
委員会関係費	¥1,437,260
旅費	¥1,252,280
会議費	¥184,980
事務局関係費	¥3,176,169
賃貸料	¥0
人件費	¥3,004,194
通信費	¥92,335
消耗品費	¥0
謝金	¥0
交通費	¥79,640
資料コピー費	¥0
その他	¥0
新人賞・特別賞費	¥0
協賛学会への助成	¥50,000
特別事業費への繰り入れ	¥0
予備費	¥0
合計②	¥14,056,557

# 日本英語学会2011年度予算計画

以下に記載いたします2011年度予算計画書が7 月1日付けで理事会で承認されました。

日本英語学会2011年度予算計画書

2011年5月26日現在

2010年度より繰越	¥10,839,417
2011年度収入	¥13,644,400
	¥24,483,817

2011年度支出	¥15,588,841
2012年度への繰越	¥8,894,976
	¥24,483,817
【収入内訳】	
会費(2011年度)	¥11,237,400
大会参加費 (春)	¥202,000
大会参加費(秋)	¥800,000
科研費	¥800,000
利息	¥5,000
雑収入	¥600,000
寄付	¥0
合計	¥13,644,400
【支出内訳】	
EL 刊行費	¥4,200,000
NL 等印刷費	¥120,000
業務委託関係費	¥2,600,000
事務委託費	¥1,300,000
発送費	¥1,300,000
大会関係費 (春)	¥208,841
印刷費	¥0
運営費	¥158,841
謝金	¥50,000
大会関係費 (秋)	¥1,900,000
印刷費	¥600,000
運営費	¥800,000
謝金	¥500,000
JELS29関係費	¥900,000
委員会関係費	¥1,600,000
旅費	¥1,400,000
会議費 事務局関係費	¥200,000
事伤问舆保有 賃貸料	¥3,420,000 ¥0
人件費	¥3,100,000
通信費	¥100,000
消耗品費	¥50,000
謝金	¥10,000
交通費	¥100,000
資料コピー	¥10,000
その他	¥50,000
学会各賞費	¥140,000
記念品	¥0
副賞	¥120,000
賞状	¥20,000
× × ×	120,000

協賛学会への助成	¥100,000
予備費	¥400,000
合計	¥15,588,841

2011年度内収支 2011年度収入 ¥13,644,400 2011年度支出 ¥15,588,841 ¥-1,944,441 2012年度への繰越 2010年度繰越 ¥10,839,417 2011年度内収支¥-1,944,441

2012年度への繰越 2010年度繰越 ¥10,839,417 <u>2011年度内収支¥-1,944,441</u> ¥8,894,976

[備考] 特別事業費 (別会計) の現在の残高は500 万円となっております。

# 事務局より

# ○ 会員数について

2011年3月31日現在の会員総数は、1555名です。

# ○ 会費納入のお願い

会費未納の方は、学会支援機構から送られました振込用紙で納入して下さいますようお願いいたします。2年間滞納されますと、会員規定第3条第4項により、自動的に退会扱いになりますので、ご注意下さい。

# ○ 東日本大震災で被災された会員の方に対する 会費免除について

日本英語学会では、東日本大震災で被災された会員の方の2011年度の会費を免除いたします。会員ご本人のみならず、会員の生計を支援される方が被災された場合にも適用されます。免除を希望される方は、日本英語学会のホームページから申請書をダウンロードされ、メール添付で2011年8月31日までにelsj-info@kaitakusha.co.jpへご申請ください。

# ○ 学生会員登録について

学生会員登録には継続手続きが必要です。指定された期日までに手続きをしない場合には、通常会員として会費請求がなされますので、ご注意ください。

今年度の手続きは、2011年4月25日(月)に締め 切りました。 手続きの方法については、日本英語学会ホームページをご覧ください。

# ○ 日本英語学会からの各種お知らせについて

研究発表応募規定、EL投稿規定、学会賞・新人賞の応募規程等が改定される場合には、ニューズレターとホームページにてお知らせいたします。特に、ホームページには最新の情報が掲載されますので、定期的に閲覧することをお勧めします。

#### ○ ELへの論文投稿に関するお願い

ELに論文を投稿される際には、日本英語学会ホームページに掲載されております投稿規定をよくお読みいただき、規定を遵守したうえで投稿されるようお願いいたします。

編集委員会あるいは開拓社宛に投稿・通知する場合には、メールの件名およびメール本文には「投稿論文の EL 掲載までの手順案内(2009)」の表で指定されている情報を必ず明記ください。開拓社から送られる自動応答の着信確認用の受領メールに返信する形で、連絡メールを送信しないでください。編集委員会あるいは開拓社宛に投稿・通知する場合には必ず指定されている宛先のアドレスに送信ください。

JELSや所属機関のworking papers 等に掲載された研究(の一部)を発展させて ELに投稿する場合には、論文審査が公平で厳正に行えるよう、関連する投稿者自身のこれまでの研究論文の情報は必ず記載してください。なお、相互に匿名による審査体制であることに留意し、本文等でそれらに言及するときには、3人称表現をご使用ください。

# ○ *EL*掲載論文の再録やレポジトリーへの登録に 関するお願い

ELに掲載された論文の著作権は日本英語学会にあります。そのため、ELに掲載された論文を他のジャーナルや著書に再録する場合には、本学会の許可が必要です。再録をご希望の場合には、日本英語学会事務局あてお知らせください。

また、最近、各大学で「学術情報レポジトリー」や「電子アーカイブ」の整備が急速になされつつあり、ELに掲載された論文をそれに登録したいとのご希望が寄せられています。日本英語学会では、発行後4年以上経過した論文の登録をお認めしています。この場合も日本英語学会事務局あてお知らせください。

EL論文の再録やレポジトリー、アーカイブへの登録をご希望の場合の連絡先のメールアドレスは、以下のものです。

メールアドレス: elsj-info@kaitakusha.co.jp

# ○ JELS掲載論文の再録・登録に関するお願い

JELS掲載論文についても、再録、および学術レポジトリーや電子アーカイブへの登録や個人のウェブサイトへ掲載の場合には、EL掲載の論文と同様に、事前に事務局までEメールでお申し出ください。

JELS掲載論文については、発行後1年を経過したものについては、申し出があれば再録や学術レポジトリーなどへの掲載を認めることになりました。連絡先のメールアドレスは以下のものです。

メールアドレス: elsi-info@kaitakusha.co.jp

#### ○ EL公費購入のお願い

ご所属の大学図書館や研究室で ELを購入されていない場合には、ぜひ購入の手続きをしていただきたく存じます。ELがより多くの研究者に知られるだけでなく、本会の運営にも益するところがありますので、よろしくお願いいたします。

#### ○ 電子版投稿・審査体制に関連するお願い

研究発表応募、ELへの投稿、および学会賞・新人賞への応募の電子化に伴い、学会から会員の方々に電子メールで連絡することが通常の状態になっています。つきましては、メールアドレスや住所等の連絡先、及び所属に変更が生じた場合には、速やかに学会支援機構にご連絡いただき、電子版投稿・審査体制の下での学会運営にご協力いただきますようお願いいたします。

連絡方法については、学会ホームページをご覧 下さい。

なお、事務局あるいは各委員会からメールで連絡を差し上げた際の返信につきましては、通常1週間の余裕をみてお願いしておりますので、その期間内にご返信をいただけますようお願いいたします。万一、返信の未着あるいは遅着にて、行き違いが生じました場合には、ご容赦お願い申し上げます。

#### ○ 外部査読者登録(更新)のお願い

「English Linguistics外部査読者登録のお願い」を事務局から年2回(3月中旬~下旬と8月下旬~9月上旬)送信いたします。今年の8月下旬から9月上旬にかけても、登録のお願いを送信する予定でおります。外部査読者登録制度への会員の皆様のさらなるご支援をお願いいたします。

#### ○ 親と子の部屋について

今年も大会会場に「親と子の部屋」という保育室を設けます。専門の保育士が待機しておりますので、安心してご利用いただけます。利用ご希望の方は、今回このニューズレターと同封されております「親と子の部屋利用案内」をご覧のうえ、事務局までご連絡下さい。

なお、この部屋の使用に関する一切の責任は利用者が負うものとし、学会は一切責任を負いませんのでご了承下さい。

# 編集後記

『え~ごがく』54号でお知らせしましたとおり、今年の4月1日付けで事務局長が交替いたしました。岡崎正男前事務局長は原口前会長、稲田会長と2人の会長のもとで2年間、日本英語学会のためにご尽力くださいました。現事務局長は昨年度は事務局長補佐として岡崎事務局長のもとで修業させていただきました。あらためて感謝し、お礼申し上げます。

また、大会運営委員会、評議員会、広報委員会 担当書記も昨年度書記の宗正佳啓氏が勤務校の事 情により交替を余議なくされ、4月1日付けで松 元浩一氏に引き継ぎました。

したがいまして、以下の陣容で、引き続き稲田 会長の在任期間中、日本英語学会の運営と事業の 実行をサポートいたします。

事務局長:西岡宣明(九州大学)

編集委員会・理事会書記:

增富和浩(宮城学院女子大学) 村尾治彦(熊本県立大学)

大会運営委員会·評議員会·広報委員会書記: 松元浩一(長崎大学)

財務・国際春季フォーラム書記:

廣江 顕(尚絅大学)

英語学研究、教育にとってたいへん厳しい状況

がとりまく昨今、日本英語学会が皆様にとってかけがえのない魅力ある学会であり続けるためのお手伝いができますよう微力ながら事務局一同、精一杯務めたいと存じます。これまでと変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願申し上げます。

(西岡・増冨・村尾・松元・廣江)

2011年7月 31 日発行

編集・発行 日本英語学会

代表者 稲田 俊明

発行所 日本英語学会

http://wwwsoc.nii.ac.jp/elsj/

〒113-0023

東京都文京区向丘 1-5-2

開拓社内

電話 (03) 5842-8900

The English Linguistic Society of Japan (ELSJ)
5th International Spring Forum 2012
Call for Papers and Workshop Proposals

# 第5回日本英語学会国際春季フォーラム **SF2012** 開催

日時: 2012年 4月 21日(土)~ 4月 22日(日)

場所: 甲南大学 兵庫県神戸市東灘区岡本 8-9-1

連絡先: forum-elsj@kaitakusha.co.jp

日本英語学会が主催する国際春季フォーラムは、若手英語学者、言語学者を中心とした、発表・交流の場を提供する目的で、4年前から開催されている国際学会です。来年4月、甲南大学で行われるSF2012の発表、ワークショップを募集します。発表内容は学会員に限りJELSに掲載することができます。たくさんの皆さんの応募をお待ちしています。

発表言語:英語(司会、質疑等すべて英語)

**発表要旨:**800 ワード未満(12 ポイントで A4 判 2 枚以内、PDF(推奨)または Word 形式)

締め切り:2011年12月2日 採否通知:2012年1月16日

宛先:forum-elsj@kaitakusha.co.jp

参加費:会員 2000 円

非会員 5000 円 非会員 学生 3000 円

詳細は英語の Call for Papers and Workshop Proposals をご参照ください。